

現状の課題

- ・ 外国語科・外国語活動において、積極的にコミュニケーションをとることに個人差が見られる。
- ・ 外国語を話す環境が不足しており、話すことに対して苦手意識が見られる。

課題に対する具体的な取組の内容

1 指導の工夫⇒児童の外国語でのコミュニケーション能力を高める手立て

- (1) 新学習指導要領全面実施を見据え、授業時数を確保
- (2) 授業を行う指導者の意識向上を高める取組
 - ① 校長によるClassroom English Lesson
 - ② 長崎県立大学 山崎祐一教授による研修
 - ③ 「学び合い」研修 稲葉義昭先生
- (3) 授業の流れ「東小スタイル」の作成と授業実践(研究授業)
- (4) ALTIによる英語検定
- (5) Freestyle English Study(校長室での外国語自主学习)



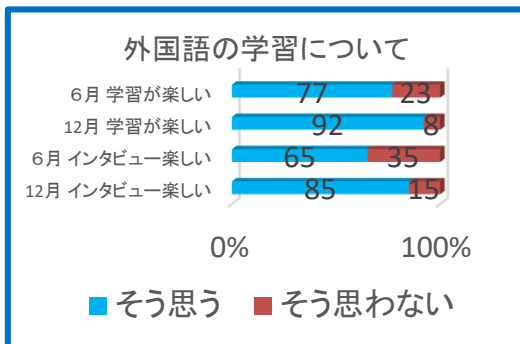
2 環境の工夫⇒シャワーを浴びるように、日常的に外国語を目に触れさせる手立て

- (1) 校内の多くの場所に外国語を使った掲示物を貼付
 - ① 階段、校門掲示板、Memory Lane
 - ② 月別掲示物、各学年別掲示物
- (2) 教室・特別教室での掲示や英語コーナーの設置



成果①

- ・ 児童の意識は6月よりも12月の方が肯定的意見が10%以上増えた。楽しみながら学習に取り組んでいることがうかがえる。
- ・ 外国語活動を通して児童の心が育まれていると同時に、学級経営にも好影響を与えている。



成果②

- 1 「聞くこと」
 - ・ 身近で簡単な事柄については内容を理解し情報を聞き取ることができている。
- 2 「読むこと」
 - ・ 環境作りの結果、英語の表記に興味を示す児童が増加した。
 - ・ 知らない言葉や表現も推測しながら読もうとしている。
 - ・ 毎日英語を目にすることにより自然に意味を捉えることができつつある。
- 3 「話すこと」
 - ・ 挨拶や、簡単な日常会話ができるようになった。
 - ・ 積極的に伝えようとする児童が増えた。
 - ・ 教師やALTIに尋ねたり、英和辞典で調べたりして自分のものにしようとしている。
- 4 「書くこと」
 - ・ 苦手意識が改善され、書きたい意欲が高まってきている。
 - ・ 英語メモを自主的にとる児童も増えている。

今後の課題・方向性

- 1 児童の実態に応じた単元の仕組み方や、指導法の工夫
 - (1) 学習過程中に設定
必然性や意味のある状況の中で、児童が考えて表現する場面を増やすこと
 - (2) 苦手意識のある児童や、苦手意識の軽減・積極的コミュニケーションを目指す授業
 - (3) 語彙力の向上
- 2 評価の在り方(行動観察・パフォーマンス評価・検定・評価カード(振り返りカード))
- 3 授業づくりのために
 - (1) 教材をストックするシステムの構築
 - (2) ALTIとの打ち合わせ時間の確保
- 4 中学校への円滑な接続